只見ユネスコエコパーク関連事業

沼ノ平総合学術調査を開始！

今年度より只見町は浅草岳の北東部に位置する「沼ノ平」の総合学術調査を開始しました。沼ノ平の自然環境、生物相および生態系について調査し、得られた情報をもとに今後の沼ノ平の管理（保護・保全・利用）方針について検討することを目的に実施しています。

― 沼ノ平総合学術調査に取り組む背景 ―

只見ユネスコエコパーク域内にある沼ノ平は、地滑り地帯に位置し、多くの湖沼が存在するとともに成熟したブナ林が発達しています。また、自然度の高い環境にあることや地滑り地帯という不安定で特殊な立地環境であることから、そうした環境に依存した特異な生物が生息、生育している報告があります。従って、沼ノ平は只見ユネスコエコパークの自然環境・生物多様性を保護・保全する上で重要な地域と考えられます。しかし、これまで沼ノ平で総合的な学術調査は実施されておらず、その自然環境、生物相および生態系の実態は十分に把握されていません。

また、現在の沼ノ平は自然公園法による「越後三山只見国定公園」の第1種特別地域と関東森林管理局により「レクリエーションの森」の指定を受けています。しかし、後者については制度の見直しに伴い、今後は森林生態系保護地域の保全利用地区へ編入されることが計画され、その取扱いが変わる見込みとなっています。

▲7月下旬～8月上旬に実施された植物調査の様子

一方、沼ノ平は大雨などの影響により土石流や崖崩れ、地すべりの発生の恐れがある「山地災害危険地区」に指定されています。実際に、平成23年新潟・福島豪雨の際は大規模な土石流が発生しています。只見町は会津森林管理署南会津支署との契約により沼ノ平内を通る登山道を利用していますが、こうした災害の発生により登山道利用者の安全面が懸念されるため、現在、登山道の利用は制限（ガイド付きのみでの利用）が設けられています。

こうした状況の中で、ユネスコエコパーク登録地域として、今後の沼ノ平の自然環境・生物多様性の保護・保全とその持続可能な利用を図り、最も適切な管理を検討・実施することを目的に、その根拠となる沼ノ平の自然環境、生物相および生態系に関する科学的な知見を得るため、今回の総合的な学術調査を実施するものです。

― 調査の実施体制と調査項目 ―

調査期間は4年間（平成29～32年）とし、次の項目の調査を実施することを予定しています。

①自然環境（地形、地質、気象、地史、水質など）

②生物相（植物、哺乳類、鳥類、昆虫類、両生類、爬虫類など）

③生態系（森林、河川・湖沼、湿地など）

▲地滑り地帯にある沼ノ平は、新潟・福島豪雨により発生した土石流でいくつかの湖沼が消失した一方で、こうした撹乱により貴重な自然環境や生物多様性が保たれている可能性があります

調査の実施にあたっては、新潟大学農学部教授の崎尾均氏を調査団長とした沼ノ平総合学術調査団が組織され、各分野の専門家や研究者が調査を実施し、調査結果を報告します。事務局は只見町役場総合政策課地域振興係となります。

また、調査結果の報告会の開催を年度ごとに予定しています。

米焼酎「ねっか」が快挙！

イギリスの品評会で「シルバーメダル」受賞

7月26日、酒類の国際品評会「インターナショナル・ワイン＆スピリッツ・コンペティション（IWSC）」の焼酎部門で、米焼酎「ねっか」がシルバーメダルという快挙を成し遂げ、8月9日に合同会社「ねっか」の方々が菅家町長を訪れ、受賞報告を行いました。

世界三大酒類のコンペティションの一つに挙げられる今回のIWSCは、1969年からイギリスで開かれている世界で最も歴史ある国際的な酒の品評会です。選考には、世界中から集まった著名な審査員200名によるブラインド・テイスティングによる1次審査と化学的な分析による2次審査で決定されます。今回の焼酎部門には、日本や韓国を中心に数多くの出品がありました。その中から約80点が入賞し、米焼酎「ねっか」は、見事に製造開始から約半年でシルバーメダルに輝きました。

受賞報告では、菅家町長が「日本国内の大会を飛び越え、世界の舞台で受賞したことはとても素晴らしい」と挨拶したのに対して、「ねっか」の脇坂斉弘代表は「全て只見町産で作った焼酎が選ばれたことは大変うれしい。今後もゴールドメダルを目指しておいしい焼酎をつくっていきたい」と抱負を述べられました。

今後、11月15日にイギリスのロンドンで受賞式が行われる予定です。

▲受賞報告に喜ぶ菅家町長（中）と受賞証明書を手にする脇坂代表（右）と目黒大輔さん（左）

▲シルバーメダルに輝いた米焼酎ねっか

「ただみ豪雪林業体験・観察の森」整備事業

森林整備ボランティア活動を実施

7月28日、黒谷区の「ただみ豪雪林業体験・観察の森」（以下、体験の森）で森林整備ボランティア活動が行われました。

この体験の森は、ユネスコエコパーク関連事業の一環として、只見町のような豪雪地帯に適応した森林管理技術の開発とその普及、そして体験することを目的として設置されています。体験の森を活用して、豪雪地帯に適した人工林の整備や豪雪地帯林業の体験、森林レクリエーション、環境教育などの事業を行っています。

今回の森林整備ボランティア活動では、体験の森内のスギ人工林において、植栽されたスギのうち将来の成長の見込みがない不良形質木（ふりょうけいしつぼく）をノコギリで伐り倒す除間伐（じょかんばつ）作業や伐採したスギの枝を落とし作業道に運び出す活動を行いました。

当日は本事業の目的に賛同、資金協力をいただいている野村総合研究所グループ社員の方々29名と町民ボランティアの方々7名が参加し、只見町森林組合の指導のもと、森林管理や林業作業の一端を体感いただきました。

▲参加された野村総合研究所グループ社員の方々と町民ボランティアの方々

▲除間伐作業を行う参加者

雇用創出や企業間連携を強化
誘致企業雇用対策意見交換会

8月2日、観光商工課が主催する「誘致企業雇用対策意見交換会」が季の郷湯ら里で開かれ、町内の誘致企業や商工会、県や町関係者15名が出席しました。この会では、企業が抱える「人材不足の問題」について協議され、各企業では人材不足を補うために、製造ラインの一部を外注していることや、町外からのU・Iターンによる人材確保の中で、Iターン向けの住宅が不足し雇用に苦労している現状などが説明されました。

今後も同会を継続し、「町総合戦略」に基づいた雇用促進のための住宅対策や雇用創出のための企業間連携を図る予定です。

▲町内の㈱会津工場、ティーエヌアイ工業㈱、㈱ヒロタテクノ、㈲セイワ電子などが参加した意見交換会

ふるさと交流都市の絆を深める
2017「柏おどりコンテスト」

7月29日、只見町とふるさと交流都市である千葉県柏市において「2017柏まつり・柏おどりコンテスト」が開催され、出場した只見町チームが見事「友好賞」に輝きました。

今年の只見町チームは、町民の方々をはじめ、只見高校生や地域おこし協力隊など21名が集まり、本番まで練習を重ねてきました。JR柏駅前広場で行われた本番では、只見町チームは華麗な踊りを披露し、結果「友好賞」に選ばれました。

今年も柏まつりに参加し、柏市との友好を深めることができました。

▲多くの観客の前で華麗な踊りを披露した只見町チーム

重要文化財の歴史的価値を学ぶ
「旧五十嵐家住宅」修理現場見学会

7月29日、教育委員会が主催する「国の重要文化財・旧五十嵐家住宅」の保存修理工事現場見学会が開かれ、町内外から約30名が参加しました。

この見学会は、10～15年に一度行われる修理工事をとおして、旧五十嵐家住宅の歴史的価値を広めようと開かれたものです。見学会では、茅葺屋根の葺き方や住宅内の修理現場などを見学しながら、旧五十嵐家住宅や修理の概要が説明されました。

参加者は、保存修理に携わる職人の技術や工法を学び、旧五十嵐家住宅が示す歴史的価値への理解を深めることができました。

▲茅葺の葺き替え工事現場を見学する参加者の皆さん

平成28年度の個人県民税で
只見町が県知事より感謝状

8月10日、役場本庁において個人県民税優良町村に対する知事感謝状の贈呈式が行われ、只見町が表彰を受けました。これは、平成28年度における町の個人県民税が徴収率99・8%と優良だったことから表彰されたものです。平成27年度まで続いた4年連続完納は今回途切れる結果でしたが、高い徴収率が認められました。

贈呈式では、大谷英明南会津地方振興局長から菅家町長へ感謝状が伝達され、大谷局長は「町民の納税意識の高さを感じる。今後もお願いしたい」と述べられ、菅家町長は「完納を目指して努力します」と話しました。

▲感謝状を伝達した大谷振興局長(左)と感謝状を手にする菅家町長(右)

JAと行政が合同セールス
「会津の夏まつりin江戸」開催

8月3日、JA会津よつばと会津全17市町村が合同でトップセールスを行う「会津の夏まつり」が東京都江東区のホテルで開催され、只見町から菅家町長が参加しました。

これは、JAと行政が一丸となり「会津ブランド」の農畜産物をPRするもので、会場に集まった首都圏の市場担当者やバイヤーなどに売り込みや販路拡大を図りました。

8月4日は、足立区のイトーヨーカドー西新井店で「会津夏まつり」が行われ、オープニングセレモニーや物産展などで会津の魅力を発信し、イベントは6日まで開催されました。

▲多くの来場者の前でトップセールスを行った「会津の夏まつり」

亀岡地区のビーチバレーコート
ビーチバレー教室を開催

8月11日、NPO法人ただみコミュニティクラブが主催するビーチバレー教室「スタートアップビーチバレー2017in只見」が亀岡多目的活性化広場内のビーチバレーコートで開かれ、町内外から約60名が参加しました。

国内のトップ選手を講師に招いた教室では、小学生から大人を対象に実技指導や交流試合が行われ、参加者はトップ選手の実力を肌で感じていました。

この教室は7～9月まで計3回開催されており、町内でのビーチバレー競技の普及などを目指し、今後は合宿の誘致なども推進していく予定です。

▲ビーチバレーを体験する参加者

小学生が英語でミュージカル
「はだかの王様」を披露

8月11日、教育委員会主催の英語ミュージカル「はだかの王様」が只見振興センターで開かれ、約100名が来場しました。これは、小学校が2020年から英語教科が始まることなどを受け、英語に親しむ機会を増やそうと企画されたものです。講師には元ブロードウェイ歌手のクリストファー・レベンス氏と、シナリオや歌を書き起こすミキ・マスダ氏を迎え、町内の小学生13名が出演しました。

本番では小学生13名が素晴らしい演技を披露し、会場からは大きな拍手が贈られました。

▲英語のセリフと歌で新たに創作した英語ミュージカル「はだかの王様」

南会津郡PTA連合会研究大会
只見小が主管「自然首都只見大会」

7月30日、第41回郡PTA連合会研究大会「自然首都只見大会」が季の郷湯ら里で開かれ、郡内の小中学校の関係者や保護者など約300名が参加しました。今大会は、只見小学校PTAが主管で「新時代を担う子どもたちに豊かな心と生きる力を育むPTA活動」をテーマに開催し、研究協議や記念講演会を行いました。

開会式では、只見小PTA会長の新國伸一さんが「学校・家庭・地域が連携したPTA活動が重要です」と挨拶し、わが家の「ふれあい訓」表彰では、只見小1年の五十嵐千紘さんなどが優秀賞を受賞しました。

▲「思春期の子どもと向き合うために」をテーマに講話する桜の聖母短期大学の西内みなみ学長